

新型コロナウイルスを含め感染症が急増しています。

ヘルパンギーナ(※1)、手足口病(※2)も増加しています。乳幼児に接する機会がある人は特に注意が必要です。

- 1) 全国での感染者数は、**117,297人(7/24 現在)**まで増加しています※。  
わずか2週間で倍増。東北・北海道地区では約2倍に増加。  
前回第8波のピーク時の感染者数は188,288人
- 2) **学内での感染者も急増**しています。
- 3) 再感染例も11例確認されています。最短では初回感染から2か月で再感染が見られています。
- 3) 前回の感染第8波を超えてくることが懸念されます。医療機関へのアクセスが困難になることも予想されますので、準備をしておくといいでしょう。

効果的な感染予防対策をお願いします。

- 1) 換気を徹底してください。自家用車で同乗者がいる場合は窓を閉め切らないこと。
- 2) 教室(室内)では、ドアの開放、エアロピュアの作動確認
- 3) **マスクの効果的な着用**を(室内でのマスク着用が感染拡大防止に効果的です)。
- 4) 三密回避、基本的な感染対策(特に手洗い)を忘れずに

※全国の医療機関のJAMDAS(日本臨床実態調査)をベースとした国内患者数に関する推計値

(※1) ヘルパンギーナとは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に夏季に流行する。いわゆる夏かぜの代表的疾患である。臨床的特徴：潜伏期は2～4日、初夏から秋にかけて、乳幼児に多い。突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、全身倦怠感、食欲不振、咽頭痛、嘔吐、四肢痛などがある場合もある。大人の場合、この喉の違和感が強く傾向にあります。通常、**2～4日くらいで発熱は収まり、喉の強い違和感も通常1週間くらいで治まっていきます**。非常にまれにエンテロウイルス感染に伴う髄膜炎や脳炎・急性心筋炎を発症する報告があります

(※2)手足口病(hand, foot and mouth disease: HFMD)は、その名が示すとおり、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。本疾患はコクサッキーA16(CA16)、CA6、エンテロウイルス71(EV71)などのエンテロウイルスが原因ウイルスである。基本的に予後は良好な疾患であるが、急性髄膜炎の合併が時に見られ、稀であるが急性脳炎を生ずることもあり、なかでもEV71は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られている。大人の場合は、症状が重く症状が出やすいので注意してください。